



# くらはし

舞鶴市立倉梯小学校  
学校だより  
令和8年3月18日

## 芽吹き of 春に、成長を想う

校舎の窓から中庭をのぞくと、大桜のつぼみが日に日にふくらみ、春の訪れを静かに告げてくれています。冬の冷たい風に耐え、じっと力を蓄えてきたその姿は、まるで子どもたちがこの一年の学びの積み重ねの中で育んできた成長の歩みを映し出しているかのようです。満開の姿まではあと少しですが、その時を待つこの時間もまた、春ならではの豊かさであり、希望の象徴であると感じています。

登校指導で立っていた与保呂川沿いの土手では、つくしが顔を出し始めています。まだ小さな姿ながら、土を押し分け、真っ直ぐに空へと伸びようとするその様子からは、小さな生命の力強さが伝わってきます。

その横を通り過ぎながら、子どもたちは「おはようございます。」「いつもゴミ拾いありがとうございます。」「と明るく、高く、勢いのある声で挨拶をしてくれます。何気ない日常の場面ではありますが、なんと気持ちのよい挨拶でしょうか。子どもたちの一年間の成長と、綿々と受け継がれてきた明るく元気な倉梯っ子の伝統を、改めて実感することとなりました。

本校では、この「つくし」を特別支援学級の名称として大切に使用させていただいています。つくし学級の子どもたちは、一人ひとりが自分のペースを大切にしながら、確実に成長を重ねています。その一步一步の歩みは、周囲に温かな気づきや学びをもたらす、学校全体を優しく包み込んでくれています。しかし、「つくし」という名が象徴しているのは、特別支援学級だけではなく、創立以来、本校が大切にしてきた「一人ひとりの成長をていねいに見守り共に伸びていく」という学びの伝統、そのものを表している言葉でもあります。土手に広がるつくしの姿は、本校の歴史に根ざした教育の歩みを、今あらためて私たちに思い起こさせてくれます。

さて、3月19日には、卒業証書授与式を挙行いたします。6年生の子どもたちは、友達や先生、地域の方々との多くの出会いの中で得た経験と努力を胸に、新たな舞台へと歩み出していきます。その凛々しくも頼もしい姿を見届けることができるのは、学校にとって大きな喜びであり、未来への希望を強く感じる瞬間でもあります。

また、3月23日には、5年生以下の児童がそれぞれの学年の課程を修了し、次の学年へと進級します。この一年間で見せてくれた一人ひとりの成長に、心から拍手を送りたいと思うとともに、次年度に向けたさらなる飛躍を今から楽しみにしています。

日々の登下校の見守り活動をはじめ、行事や学習活動への温かなご支援を賜りました地域の皆様には、今年度も多大なるご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

保護者の皆様には、毎日の体調管理や学習への励まし、学校教育への深いご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

年度が改まり、新しい仲間を迎える頃になると、与保呂川沿いの堤防は、やがて一面の桜色に染まります。別れと出会いが交差する春は、学校にとって再び大地を耕し、芽吹きを支える大切な季節でもあります。来年度も、子どもたち一人ひとりが希望を胸に、自ら伸びていこうとする力を育みながら、本校の教育活動をさらに充実させてまいります。

引き続き、温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

一年間ありがとうございました。

校長 四方 直人